

花と緑の銀行だより

164号 2007.7



イワイチョウ／白木峰

目次	・花と緑の提言.....	2	・花壇づくり.....	5
	・活動事例.....	3	・写真コーナー.....	6
	・緑づくりコーナー.....	4	・情報コーナー.....	7
	・この人あり.....	5		



新しい種類の花にチャレンジを

富山県花き商業協同組合理事長 西尾 正

(富山テレビ事業㈱ 代表取締役社長)

私が勤務する富山テレビ事業㈱は富山テレビ放送㈱の子会社でその業務は主にテレビ放送に関係するテレビ番組やテレビコマーシャルの制作及びコマーシャルの代理店業務などです。また、企業や公共団体等からの依頼によるプロモーションビデオや観光PRビデオの制作も行っております。

これらの業務は、「営業部」と「制作部」が担っていますが他に「花き部」があり空港線沿いの花屋「花メイト」を経営しております。

私は時間が許す限り店頭に立ち、花苗の手入れやコンテナの植え替えなどを行いながらお客様と接して時節のニーズを把握するように心掛けており、そういった体験の中から気がついたことを述べさせていただきます。

店の狭い花苗売場に陳列される苗の種類は春から日に日に増えており5月にそのピークを迎えます。インパチェンス、サルビア、ニチニチソウ、四季咲ベゴニア、ペチュニア、マリーゴールドといった慣れ親しんだ一年草から始まって、サフィニア、プリエッタ、ミリオンベル、カリブラコアなどの新品種といったもの、ゴールドクレスト、ヘデラ、栄養系コリウスなどの緑葉を楽しむものなど多種多様でその名前を覚えるだけでも大変です。

ものすごい勢いで新品種の開発が行われているのはもちろん種苗メーカー側での経営戦略でもあるのですが裏を返せばそれに対応した旺盛な需要があるからでもあります。

さて、視点を身近な公共花壇やコンテナ（プランター）に移してみましょう。そこに植栽されている草花の種類はどうでしょう。十年前いや二十年前もひょっとした今と同じものが植えてあったのではないのでしょうか？初夏から秋にかけては、インパチェンス、サルビア、ニチニチソウ、四季咲ベゴニア、マリーゴールド…初冬から春には、チューリップとパンジー（ビオラ）などが。

店頭ではこれらの種類の売れ行きは年々減少して新しい種類に人気が移っています。ここで公

共花壇や学校花壇などでも新しいものへの転換を図ってはいけなものでしょうか？県下どこに行っても同じものしか見られないのではうまくないですよ。もっと地域の特徴が出てもいいのではないのでしょうか？

もちろんいろいろと困難な問題もあるでしょう。経費の増加や生産体制の問題など。しかし、生産者もそれを望んでいるはず。毎年同じものばかり（※単価は低く抑えられたままで）では生産意欲も向上しないのではないのでしょうか。

夏・秋花壇にはペチュニアの改良種やブルー系の品種を取り入れるなど…。もちろん苗の単価は上がるでしょうが新品種は大体において生育が旺盛です。植栽株数を減らすなどの改善策があるはず。

冬・春花壇にはやはりパンジー（ビオラ）が欠かせません。けれども新しい系統のものがいろいろと開発されており目新しいものを取り入れたいものです。それと、一緒に混植するチューリップですが、これはまだまだ改善すべきところがあります。チューリップは「県の花」ですからできるだけ活用すべきとは思いますが（県内産球根の生産振興にもつながるので）、現在の植え方ではチューリップの良さが発揮されないどころかかえって逆効果な面も見受けられます。

チューリップのすばらしさはチューリップ畑に集約されると私は常々思っています。コンテナ（プランター）に1列咲いているのでは美しくは見えません。せめて2列以上植えたいものです。ですから、最もポピュラーな60型のプランターにパンジーとの混植はやめて、混植するなら奥行30センチ以上の大型のプランターを活用すると良いと思います。

県民一人ひとりがもっと花と緑に親しみ・理解を深め素晴らしい県土となるよう夢を見て今日も明日も店頭に立ちたいと願っています。

鷹栖地区における花のまちづくりについて

砺波市鷹栖花と緑の推進協議会

会長(頭取) 猪原 健造

鷹栖地区の位置と現況

鷹栖地区は、庄川扇状地の扇央部に位置し、砺波平野の中心砺波市に位置する田園地帯で、人口約2,500人、戸数約450戸といわれ「カイニョ」と呼ばれる屋敷林に囲まれた砺波散居村の最遠例村であったが、戦争による木々の供出や、戦後の居住環境の変化による伐採、維持管理上の問題、近年の台風の影響等もあり、「カイニョ」の木々は切り倒された。近年新興住宅の開発で純農村から非農家との居住社会へと進行し、現在では、人口3,060余名、戸数850戸余りとなり、かつての散居村の形態が損なわれてきており、チューリップ生産農家も年と共に減少している実態で、花と緑による一層の潤いのあるまちづくりを求められている。

地区内の美化活性化をめざして

昭和60年11月「県土美化運動の推進」が提唱され、各地区各集会場等の広場に花壇が出来た。同年には、鷹栖婦人会の手で、鷹栖公民館前の空き地を利用し花壇が出来た。

また、さつき、盆栽、菊等の愛好者が相集い、長寿会園芸部が発足した。

昭和63年に広く地区民に呼びかけ、鷹栖緑化愛好会と改称し、地区の花壇の手入れや除草、園芸技術講習会を行い、会員の技術力を高めている。

花と緑の推進協議会発足とはたらき

昭和60年、地区の婦人会が花づくりを開始して以来、平成4年8月、「花と緑のふるさとづくり」を推進するため、地区民総参加による

- (ア) 花と緑の普及と啓発
- (イ) 地区緑化施設の整備及び清掃
- (ウ) 砺波市及び地区推奨の花と緑の普及
- (エ) その他、園児、児童、生徒達の情操教育等を目的として鷹栖花と緑の推進協議会が結成された。

主な活動内容

- ①鷹栖公園花壇：鷹栖公園の一角にあり、花木や宿根草を取り入れた自然風花壇とし、各種団体役員が交代で灌水や除草等の管理を行っている。

鷹栖公園花壇

平成18年度、待望の花壇拡張工事を行い一層の潤いと美化強化を図っている。

- ②各地区の花壇：2区、5区、14区、東町等に花壇を設置し、身近に花や緑に触れ合える環境づくりに努めている。
- ③花の道：地区内を東西に走る旧国道359号の中心部に鷹栖宮町町内会があり、60個の大型プランターを設置し、道行く人の目を楽しめるとともに、小学校、保育所に通う子供達の情操教育の一助としている。栽培管理の支援効果が実り、平成8年度設置以来、砺波市花壇コンクールでは、平成9年に優良賞、平成10年から16年までと18年に優秀賞、平成17年には最優秀賞をし、富山県花壇コンクールにおいては、平成17年には、花の道部門で優秀賞、平成18年には一般花壇の部で最優秀賞を受賞した。

努力していること

- ①1年を通じて花を咲かせること。
- ②良い土づくりをすること。
- ③児童クラブに対しチューリップ球根とパンジーの寄せ植え講習会を行い、花と緑への関心を啓発すること。
- ④現在設置されている大型プランターを東西に通じる旧国道359号全線にわたるフラワーラインの復活



鷹栖宮町フラワーライン

成果及び今後の課題

- ①5年前から、花と緑の銀行のプラグ苗講習を受講し、花壇づくりに挑戦しており98%の生育率に育った。
- ②花と緑の銀行の支給苗と併せて、鷹栖公園メイン花壇をはじめ各地区花壇、2区交差点花壇を振り出しに旧国道359号フラワーラインの砺波工業高校を含む全てに配布し、植えて頂くことが出来た。地区内の花づくりに対する関心は徐々に高まっている反面花づくりに携わる人が高齢化しており、魅力ある花づくりを心掛けたい。その点からも平成18年度鷹栖公園花壇の拡張は意義あるものと思われる。

今後とも、多くの人々を癒しと憩いの場となるような花壇づくりを目指すと共に、地区の保育所や小学校の子供達の情操教育の一助となるよう努力していきたい。



植付作業

ケヤキの害虫として著名な アカアシノミゾウムシの被害とその対策

日本樹木医会富山県支部

樹木医 西村正史

ケヤキは、街路樹、屋敷林、公園等の重要な構成種として植栽されており、多くの県民にとって親しみのある樹木です。新緑の頃や黄葉の頃は非常に綺麗であり、多くの県民の目を楽しませてくれます。このようにケヤキは緑化木として有名ですが、林業的観点からみても非常に大切な樹木で、材が赤っぽい場合には高価格で取引されます。もしも材に牡丹雪のような模様があらば、その量や形によって価格はさらに高くなります。岐阜のケヤキ専門の市場で、厚さ5cm程度で畳1畳分に多数の牡丹雪の模様がある材が1千万円を超える価格で取引されていました。

このような多くの県民に親しまれているケヤキにも弱点があり、7月下旬頃に遠くから見ると樹冠全体が真っ赤になり落葉してしまい、枯れたのではないかとと思われる現象が見られる年があります。これは葉を食害する小さな虫「アカアシノミゾウムシ」による被害です。この害虫の生態とこの被害に対する対策を紹介します。

どのような虫か

成虫は褐色の小さな甲虫で、その大きさは2.5～3mmです。飛翔能力は当然ありますが、歩行ではノミと同じように飛び跳ねます。そのため、このような名前がついたものと思われます。1年1回の発生で、成虫で越冬します。冬越しした成虫は、ケヤキの新葉の先端部に卵を産み込みます。卵からふ化した幼虫は葉肉を食害し、5月になると食害した葉の内部で蛹になり（写真1）、5月中旬から6月下旬に成虫になって外界に脱出します。

脱出した成虫は秋までケヤキの葉を網の目状に食害します（写真2）。そのため、葉が季節はずれの「紅葉」現象となり、著しい場合には落葉し、葉が全くなくなります。これは枯れた訳ではなく、1ヶ月もすれば新しい葉が展開し、丸坊主になったのが嘘のように元の状態に戻ります。ですから、枯れたわけではありません。

対応策

この虫に対してケヤキは非常に強く、このような被害が数年続いた場合にも枯れることはほとんどありません。希に枯れるケヤキも出現しますが、その原因はケヤキ自体が他の要因で衰弱していたものと思われる。そのため、この害虫を駆除するために薬剤を用いた防除は行わないのが普通です。

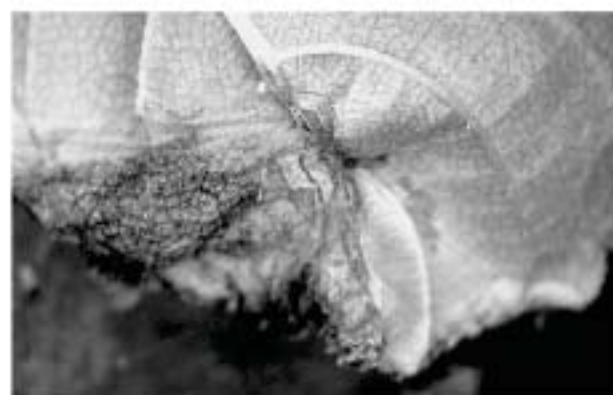


写真1 幼虫による食害部(上の写真)と
内部の老熟幼虫(下の写真)



写真2 成虫による食害



花と緑の豊かな街づくりをめざして



花と緑の銀行発足の翌年の昭和49年春、青年団活動を終えた同僚などに、花いっぱい運動に興味と情熱を持つボランティア仲間を募ったところ15名ほどのメンバーが集まった。グループ名を「福光花の会」として、花いっぱいの豊かな街づくりをめざし活動することを誓った。活動の拠点を福光駅前から小矢

部川に架かる福光大橋西詰めまでと決め、花苗の育苗のため、町有地を無償で借り、了解を得て田土を魚のトロ箱に入れ、駅前ロータリーから福光大橋まで歩道の両側に並べた。街中を行き交う人の目に潤いと心に安らぎを与えようと花の咲くのを楽しみにしながら当番を決めて育苗管理をしていましたが、当時は、夜中に心無い人に壊されたり、抜き取られたりした。それにもめげず手直し、補植の連続でした。また、花苗を道行く人に無償で配ったりなどその活動が10年余り続く中、学校、保育園、各地区公民館などでは花いっぱいの気運が高まり、支店と共催で花壇コンクールを行うまでになった。丁度その頃、頭取、グリーンキーパー、協賛企業で組織する、「福光町花と緑の推進協議会」（現在は南砺市福光地域花と緑推進協議会）が発足した。

福光花の会は、お互いにそれぞれの職業に就き、多忙が続く、花いっぱい運動が定着してきたのを期に、会の活動を終えることになった。時期を同じくして、先輩の頭取から頭取の引継ぎを受け、協議会の運営委員として、更なる花緑の取り組みの強化を目指して、活動を続けることにした。

花と緑の銀行 南砺支店

福光支所長(北山田地区 頭取) 山田政寛

協議会では、それぞれ各人のレベルアップにつなげられるよう、現地課題研修を行ったり、先進地を見学したり、見聞を広めるため、県外研修を行ったりしています。花と緑の銀行から頂ける花苗に加え、自作の花苗を取り入れるなどの花愛好グループや、毎年デザインを考え、テーマを決めて花壇作りをしているグループなど多彩であり、花壇コンクールでは、優劣の付けがたい花壇が多く見られるようになりました。

秋には、福光庁舎前で行われている農林業祭に参加し、石楠花の無料配布コーナーでは、抽選に長蛇の行列が出来、他の模擬店に迷惑がかかっているような状況です。あまりにも多くの方が並ばれるので、石楠花をもっと多く準備してはの声が聞こえました。

福光地域の花愛好グループ、学校、保育園、公民館などにはそれほど大きな花壇がなく、協議会発足以前から福光庁舎前の緑地帯を市民の憩いの場にするのが大きな夢でした。今年度、市の了解を得てメンバーそれぞれ作業機械を持ち寄り土の入れ替え、堆肥、肥料、土壌改良材などを入れて造成することができました。

定植作業では、川や山に見立てて花苗を配置して、福光の自然風景をアレンジしたデザインとしました。

福光庁舎を訪れる市民に安らぎを感じ取ってもらえればと思っています。福光庁舎前花壇は、花と緑を愛する協議会の活動の拠点として、これからも続けていきたいと思っています。

〈花壇づくり〉

いつまでも楽しめる宿根草の花壇づくり(2)

「いい加減で几帳面な土の耕し方」

職藝学院 常勤講師 渡邊美保子

今回は、植栽の前に行う宿根草花壇の土の耕し方を説明しましょう。前回説明した土壌改良材を花壇にまいた後、ボーダーフォーク(宿根草を掘り取る専用の道具)に足をかけて地面に垂直にさし、テコの原理で土を持ち上げひっくり返します。カニのように小股で横に移動しながら少しずつ土を返してゆきます。持ち上げた土をなるべく空中で回転させるようにしますと、空気を含んだ土が出来上がります。ボーダーフォークがない場合は、ケンスコップでもかまいません。改良材と土が良く混ざるように、カニ歩きの幅をなるべく少なくとるのがコツです。せっかちな人にこの作業をまかせるのは止めましょう。苗を植えるとき移植ゴテで地面を掘ると、バームクーヘンのような茶色い層が出てきます。

次に耕した表面をレーキを使ってならします。これで終わりではありません。実はここからがプロの技です。トレディングという技を紹介しましょう。ふかふかにした地面を踏む作業です。まず花壇に入り、足を地面から離さずに再びカニ歩きの要領で横に進んでゆきます。花壇の端までいったら靴のサイズだけ後ずさりして、今度は逆方向へ平行移動します。トレディングの目的は、均等に踏むことにより、地面がへこむところ、高い所を足の裏で知ることです。その後、足の裏で感じた高低差をなくすように再びレーキでならすと、均等に圧力のかかった

花壇の土壌ができあがります。トレディングは根っここの生育を良くするために行います。耕した後の土は表面的にはふかふかに見えますが、地面の中では、部分的に空洞ができたりします。この部分に雨が降るとストンと土が落ち込んで水溜りの原因になり、根の生育に影響を与えます。そんな細かいことなんて思う方は園芸家にはなれませんよ。これが、200年の歴史のあるガーデニング大国、英国の伝統的な手法なのです。この作業の終わった後は、絶対に花壇を踏んではいけません。絶対にです！苗を植えるときはどうするのか？というと、足のサイズよりも2倍の長さの細長い木の板を何枚か使います。行きたいところめがけてその板を投げて、飛び石をうつような感じで花壇に入ります。板を置くことにより、花壇に入る人の体重を分散させることができます。

英国の園芸の巨匠から学んだ最大の教訓は、いい加減を知ること、そして几帳面であること。いい加減とは、よい加減のことで、植物を育てた経験から生まれる幅のようなもの。この幅は、この範囲なら植物が生きられるということを五感をとおして体験した園芸家にだけ与えられる特権です。そして、几帳面とは、科学的に植物の生育を分析できる知識をもつということです。いい加減と几帳面の二つを兼ね備えた園芸家をめざして土を耕してみてください。

いこいの庭

(富山県中央植物園)

富山県中央植物園内に富山県緑化造園土木協会が、花と緑のフェスティバルの開催にあわせて、県内各支部の協力を得て制作した和風・洋風のモデル庭園「いこいの庭」9作品が常設展示されています。「我が家にも庭を」と考えておられる方には大いに参考になると思いますので紹介します。



わび・さびの庭



四季を楽しむ モダン和風庭園



仙樹庭



太陽のめぐみ



くつろぎの庭



Still Climbing



流石



富山の大自然



ちょっと一息



全 景

花と緑のニュース

入善町新屋地区で花いっぱいフェスティバル開催される

去る6月16日(土)入善町新屋地区では、今年度から始まった花のまちづくり新拠点創出支援事業を活用して、地区の住民約40名の参加を得て、新屋地区公民館の前庭に新しく花壇を設置しました。新屋地区はこれまで、公共花壇がなかったことから、「この新しい花壇を中心に、花と緑の活動を盛んにしたい」と頭取の米山さんが決意を述べられていました。

今後、この新事業は県内8地区で順次実施される予定です。



新しい花壇への植え付け作業



最後にみんなで記念撮影

花と緑の銀行今後の行事予定のお知らせ

行 事 名	期 日	内 容・場 所 等
富山県花のまちづくりコンクール (審査日程等)	7月10日(火)	個人花壇応募締切
	7月20日(金)	推奨花壇現地審査、学校花壇・幼稚園・保育所花壇応募締切
	7月27日(金)	花の道・一般花壇応募締切、個人花壇現地審査
	7月30日(月)～31日(火)	学校花壇現地審査
	8月2日(木)～3日(金)	幼稚園・保育所花壇現地審査
	8月6日(月)～7日(火)	花の道現地審査
	8月9日(木)～10日(金)	一般花壇現地審査
	9月下旬	審査結果の発表
	11月中旬	花壇コンクール写真展(婦中町ファボレ)
頭取・グリーンキーパー 各種研修	9月4日(火)	新任頭取・グリーンキーパー現地研修 (富山市・射水市・砺波市)
	9月7日(金)	フラワーグリーンパス現地研修(募集定員180名程度)
	11月21日(水)	頭取・グリーンキーパーステップアップ研修終了式
	11月22日(木)	新任頭取・グリーンキーパー研修 場所：富山市サンフォルテ
第35回花と緑の大会	11月6日(火)13:30～	緑化功労者・花壇コンクール入賞者表彰式、講演会 婦中ふれあい館(富山市婦中町砂子田)
支店頭取・グリーンキーパー 活動推進会議	1月下旬～3月下旬	県内各支店で開催
第18回花と緑のフェスティバル	平成20年2月22日(金) ～24日(日)(予定)	富山県中央植物園(富山市婦中町上巻田)
第1回 コンテナガーデン・コンテスト	平成20年2月15日(金) ～3月2日(日)(予定)	募集予定数30作品：富山県中央植物園 (富山市婦中町上巻田)

表紙・裏表紙写真提供：成瀬博行(富山市)

表「イワイチョウ」：中部地方以北の亜高山帯～高山帯のやや湿ったところに生える多年草

裏「ヨツバヒヨドリ」：ヒヨドリバナの変種、花期は7～9月、近畿地方以北の山地に生息する野草



ヨツバヒヨドリとアサギマダラ(蝶)／有峰

花と緑の銀行だより 164号

発行日 平成19年7月

編集発行 財団法人 花と緑の銀行

〒939-2713 富山県富山市婦中町上善田42

TEL 076-466-2425

FAX 076-465-5923

ホームページアドレス <http://www.bgtym.org/fgbank/>

富山県中央植物園

〒939-2713 富山県富山市婦中町上善田42

TEL 076-466-4187

FAX 076-465-5923

ホームページアドレス <http://www.bgtym.org>

富山県花総合センター

〒939-1383 富山県砺波市高瀬46-3

TEL 0763-32-1187

FAX 0763-32-1219

ホームページアドレス <http://WWW.pref.toyama.jp/branches/1692/1692.htm>

県民公園緑地の森

〒939-1431 富山県砺波市緑成156

TEL 0763-37-1540

FAX 0763-37-1450

ホームページアドレス <http://www.bgtym.org/ranjyounomori/>

